

# 市政ニュース

「ミシュラングリーンガイド」に城崎温泉など掲載！  
「ことりっぶ」 城崎温泉 出石・豊岡は全国で発売



「ミシュラン・グリーンガイド」  
ジャポン（フランス語版）

## 「ミシュラングリーンガイド」 ジャポン

フランスの大手タイヤメーカーのミシュランが発行する旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」（フランス語版）が改訂され、2月18日からフランスなどのフランス語圏で発売が開始されました。

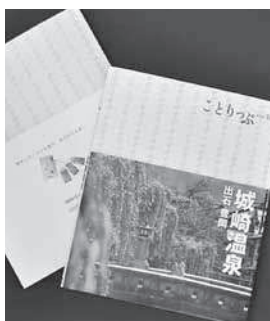
同ガイドは、観光ガイドブックとして1世紀もの歴史を誇り、本国フランスだけでなく世界各地に影響力のあるガイドブックです。

改訂版には、「城崎温泉」が「寄り道をして訪れるべき場所」を意味する二つ星（★★）で、大師山（城崎温泉ロープウ

エイ山頂）からの眺望が「興味深い」を意味する一つ星（★）として掲載されています。さらに、出石の町並みや皿そば、出石永楽館、竹野浜、気比の浜なども掲載され、コラムではコウノトリ野生復帰の取組みなどが紹介されています。

## 「ことりっぶ」 城崎温泉 出石・豊岡

（株）昭文社とタイアップして制作を進めていた観光ガイド「ことりっぶ 城崎温泉 出石・豊岡」が完成し、2月15日から全国の書店で販売されています。豊岡の魅力が満載、新たな旅の発見ができる一冊に仕上がっています。



▲人情あふれる豊岡らしい、温かい表紙

## 豊岡市の企業・しごと情報サイト 「ジョブナビ豊岡」がオープンしました

市内企業情報やU・I・Jターインを希望する若年層向けのしごと情報の発信を目的に、「豊岡市の企業・しごと情報サイト」を開設しました。

2月20日に開設しました。進学などで市外に出ている若者が豊岡に帰って就職できるように、求人情報や合同企業説明会などの情報をお知らせします（スマートフォン版も



▲「ジョブナビ豊岡」のサイト

あります。また、登録者にメールアドレスを送ります。URL  
<http://job-navicity.toyooka.lg.jp/>

## 「NHK大河ドラマ」八重の桜の川崎尚之助活用 神戸市営地下鉄車内広告実施

NHK大河ドラマ「八重の桜」に出石藩出身の「川崎尚之助」が登場しています。

市では、大河ドラマを有効に活用して、豊岡・出石の認知度アップを図り、誘客促進等を進めるため、さまざまな事業を展開しています。

この一環として、2月17日から3月末まで、神戸市営地下鉄（西神山手線・海岸線、全208車両）の車内広告を実施しています。また、3月中は、同地下鉄



▲川崎尚之助の故郷を旅する。

### 主な市政の動き

#### 〔2月〕

- 14日・城崎国際アートセンター基本計画策定
- 15日・港3校が「漂着ごみに関するポスター」作製配布
- 19日・中華人民共和国浙江省庵東鎮における環境教育・環境創造型農業普及事業（コウノトリが結ぶ環境協力）報告会

- 20日・「ジョブナビ豊岡」開設
- 22日・宇宙教育「出前授業」
- 25日・2012植村直己冒険賞受賞者発表（東京都）
- 27日・バスケットボールチーム「兵庫ストークス」代表が市長表敬訪問
- 28日・第22回地球環境大賞の「審査委員特別賞」受賞

#### 〔3月〕

- 1日・市議会開会（27日）
- 田鶴野・竹野・清滝小学校5年生がふるさと教育教材作成を市長に報告
- 兵庫県立大学との連携協力協定による「ものづくりセミナー」
- 9日・運動遊び検証報告会
- スポーツ座談会「夢をあきらめるな」

## 港西・港東小学校、港中学校による「漂着ごみに関するポスター」作製と

### 田鶴野・竹野・清滝小学校の5年生がふるさと教育教材作成

#### 「漂着ごみ」ポスター作製



▲港3校が作製したポスター

港西・港東小学校、港中学校の3校は、「ふるさとの海岸をきれいにしよう！」をテーマとした環境学習交流会を行っています。

本年度は、「岡山川下流域・周辺水田」のラムサール条約湿地登録を受け、3校が協力

し、岡山川と日本海を守るポスターを作製しました。

2月15日、岡山川上流地域などの教育委員会を訪問し、ポスター配布を依頼しました。

#### ふるさと教育教材作成

市では、地域の自然・文化・先人の生き方を学び、地域を誇りに思い、「ふるさと豊岡」を自分の言葉で語ることで、できる子どもの育成に力を入れています。

本年度、山陰海岸ジオパークのサイトを校区に持つ、田



▲田鶴野・竹野・清滝小学校児童が教材完成を市長に報告

## 健康づくり推進モデル地区交流会を開催

### 「健康づくり」やれば「ごほうびは訪れる」

2月25日、健康づくり推進モデル地区の西花園区、下陰区、桑野本区(竹野地域)、岩中區(日高地域)の代表者が集まり、現在の活動状況や課題を話し合いました。

4区とも自主活動に移行しましたが、地域が元気になるには、参加者の拡大や継続が重要です。楽しく参加でき、参加者が目標を持って取り組

める教室づくりに向けて、有意義な議論ができました。モデル事業の科学的な検証を大阪産業大学准教授の佐藤真治さんをお願いしています。4区のアンケート調査結果や運動教室参加者の3カ月間の効果報告では、「玄さん筋トレ」を実施することで、健康度が良くなっているなどの効果が出ています。

地域を挙げての先駆的な取り組みにより、個人から家族、そして地域へ、元気の輪が広がっています。

地域を挙げての先駆的な取り組みにより、個人から家族、そして地域へ、元気の輪が広がっています。



▲健康づくり推進モデル地区交流会

## 中貝市長の徒然日記 65

### プロ登山家の覚悟

17回目になる今年の植村直己冒険賞の受賞者は、竹内洋岳さんです。ヒマラヤ8000メートル峰14座全ての登頂に日本人として初めて成功されました。そのうち11座は、酸素ボンベを使わないでの登頂です。

今年、もうこの方をおいて他にはない。選考委員の一致した意見でした。

受賞者の発表は、毎年、植村さんの母校である明治大学の会議室で行います。

記者会見で、竹内さんの話「こんな風に始まりました。「登山という行為に賞を与える冒険賞を設け、育ててこられた豊岡市に感謝します」

竹内さんの肩書きは、「プロ登山家」です。「先人たちが命をかけて登り切ろうとしてきた、そして実際に命を落としてきた14座に向かうには覚悟がいります。その覚悟を『プロ』という言葉に込めました。頂上では、ゆっくりされる

「頂上に着くと、すぐ下山の準備をします。頂上はその山の中で最も空気が薄く危ない場所です。本来人間がいてはいけない場所です。登って下りる、頂上はその通過点に過ぎません」

竹内さんの、子どもたちへのメッセージを見つけてきました。「私たちが見なければならぬのは、はるかかなたの宙に舞っているような夢ではなく、自分の足元から続くずっと先にある、到達すべき目標です。それは遠くにあっても、高くにあっても、ひたすら歩き続け、登り続けることであらう。着く、山の頂上のような存在だと思っています」

歩き続け、登り続けることであらう。着く、山の頂上のような存在だと思っています。

記者会見終了後、主催者のテールに置いてあった玄さんのぬいぐるみを差し上げました。「おお、玄さん！ゆるキヤラ、大好きなんですよ！」植村直己冒険賞は、今年も素晴らしい受賞者を得ました。